

ChatGPT Workで日本企業の知財業務はどう変わるか

Executive Summary

米国時間2026年7月9日にOpenAIが発表した **ChatGPT Work** は、従来の「質問に答えるチャット」ではなく、**複数ソースを横断し、進捗を見せ、承認を挟みながら、完成物まで持っていく業務エージェント**という位置づけです。公式リリースノートと学習ドキュメントでは、Workが **connected apps・ファイル・プラグイン**を使って、**文書、スプレッドシート、プレゼン、レポート、Sites**を作成し、さらに **Scheduled Tasks**で定期更新まで回せると説明されています。同日に公開されたGPT-5.6は **Sol / Terra / Luna**の3層で提供され、Workではプランに応じてこれらを使い分けられます。つまり、日本企業の知財部門にとっての本質的変化は、単なる要約自動化ではなく、**発明受付→調査→ドラフト→レビュー→証跡保存→定期監視**を一つの作業面で束ねられることにあります。 ¹

ただし、知財実務の現場で直ちに「OpenAI一強」になるわけではありません。**特許・契約・権利侵害の“最終判断”は、依然として弁理士・弁護士・社内知財責任者の業務**であり、日本法上も、AIや無資格事業者が外形上そこへ踏み込み過ぎると、弁護士法72条や弁理士法75条との関係が問題になります。法務省はAIを用いた契約書等支援サービスについて、一般論として非弁該当性は個別具体的に判断されるとしつつ、一定の自動化支援は許容し得る整理を示しています。他方、日本弁理士会は、AIを使っても、**報酬を得て実質的に弁理士専権業務を行えば75条違反の可能性があると整理**しています。したがって、ChatGPT Workの最適な位置づけは「人を代替する法的判断装置」ではなく、**人の専門判断の前段・周辺・証跡管理を厚くする横断オーケストレーション層**です。 ²

競争環境を見ると、**Microsoft**はM365/Exchange/SharePoint/Teamsに深く埋め込まれた統合性と監査性、**Google**はWorkspaceネイティブの権限継承・DLP・ノーコードエージェント、**Anthropic**はResearchと引用可能性の高さ、**LegalOn**は契約審査の専門性、**AI Samurai**は特許検索・評価・明細書支援の専門性でそれぞれ強みがあります。したがって、日本企業の知財実務で最も現実的なのは、**OpenAI Workを“水平レイヤー”に置き、契約はLegalOn、特許調査・作成はAI Samuraiや既存特許DB、社内文書はMicrosoft/Googleの既存基盤と組み合わせる構成**です。特に既存のPMS/IPMSやDMSとの専用連携が公式資料上で明示されていない部分は、PoCで早期に潰すべき論点です。 ³

実務上のインパクトは大きいものの、効果は工程ごとに偏ります。**要約・翻訳・一次検索・比較表化・論点抽出・証跡整理**は大きく短縮されますが、**請求項設計、均等論を含む侵害判断、拒絶理由通知への最終応答、出願可否の経営判断**のような高責任判断は最後まで人が握る必要があります。一般的な知識労働の実証研究では、AI適合タスクで**約14%から25%の生産性向上**、BCGの実験では**25.1%高速化・40%以上の品質向上**が報告されていますが、同研究は同時に、**AIの得意領域から外れると性能が落ちる“jagged frontier”**も示しています。したがって知財部では、削減効果を大きく見積もるより、**一次処理の短縮とレビュー密度の増加**に置き換えて設計するほうが安全です。 ⁴

結論を先に言えば、**ChatGPT Workは日本企業の知財業務を「人が全部書く仕事」から「人が設計し、AIが調べ、形にし、人が責任を取る仕事」へ変える**可能性が高いです。ただし、契約レビューや特許調査の“専門最終盤”では、当面は競合の専門特化製品が優位です。よって経営判断としては、**OpenAI Work単独導入よりも、既存情報基盤と専門SaaSを束ねる統制設計付きPoCが最適解**です。 ⁵

比較表

以下の表は、2026年7月12日時点で公開確認できた公式資料・プレスリリース・技術文書を基に、日本企業の知財業務での利用可能性を実務観点で整理したものです。価格・SLA・専用IPMS連携などで公式資料上明示されないものは「未公開」としています。

製品	主要な強み	対象範囲との適合	説明可能性	プライバシー・機密保持	証拠保全・監査	統合性	日本語対応
OpenAI ChatGPT Work	Deep research、connected apps、ファイル生成、Scheduled Tasks、Company knowledge、RBAC。汎用の横断オーケストレーションが強い。 7	特許出願準備、審査対応の一次整理、権利化戦略メモ、先行技術調査の一次スクリーニング、契約レビューの叩き台、侵害リスク一次整理、発明ノート、社内ナレッジ管理に広く適合。ただし特許DBや法務専用ロジックは別途必要。 8	高め。deep researchは引用・source links・activity history、company knowledgeは元資料への明確な引用付き。 9	Business/Enterprise/Edu既定で学習不使用。日本でデータレジデンシー対応。外部app・Webへ出ると相手側条件に従う。 10	activity history、Compliance API、承認付きワークフローは強い。一方、訴訟向けリーガルホールドや改ざん耐性付き証拠保全の専用機能は公式資料上明示未確認。 11	プラグイン/app/MCPベースで高い。だが専用IPMS連携は今回確認した公式資料群では未明示。 12	ChatGPTの言語設定で日本語可。日本国内向け税制・データレジデンシー情報も整備。 13

製品	主要な強み	対象範囲との適合	説明可能性	プライバシー・機密保持	証拠保全・監査	統合性	日本語対応
Microsoft 365 Copilot	M365ネイティブ。Word/Excel/Outlook/Teams/SharePoint/OneDriveの既存資産活用に圧倒的に強い。Work IQ、Graph connectors、既成エージェントも用意。 15	契約レビュー、社内ナレッジ、審査対応資料、発明会議メモ、案件横断の情報収集に強い。特許専用の評価ロジックは別途。 16	高め。応答にcitationが付き、web grounding時は生成検索クエリも可視化される。 17	Enterprise data protection、DPA、Microsoftがprocessorとして扱う仕組み。もっともBing web searchは別ハンドリング。 18	prompts/responsesはExchangeに記録され、監査・eDiscoveryに利用可能。証跡運用は競合中でも強い。 19	既存M365環境との統合は最強クラス。Graph connectorsで外部コンテンツも取り込める。 20	日本語製品ページ・価格ページあり。日本企業向け提供は明確。 21
Google Workspace with Gemini	Workspace/Gmail/Docs/Drive/Meet/NotebookLM/agent管理/DLPが一体。ノーコードでエージェント構築。 23	契約レビューの前処理、発明会議のメモ化、ナレッジ検索、翻訳、調査メモ作成に強い。Deep Researchは調査報告作成に適する。 24	中～高。権限に基づくgroundingは強いが、説明可能性は使用面によって差がある。Deep Research/NotebookLM側は強い。 25	Enterprise-grade protections、human reviewなし、モデル学習なし、DLP・data regions・既存保護継承。 26	組織内生成物はWorkspaceコンテンツと並置管理される。証跡としては管理しやすいが、法廷証拠化は別設計が必要。 26	Workspace基盤なら非常に高い。自社データに基づくエージェント運用も比較的容易。 27	日本語は明示サポート。Docs/Gmail/Chat/Meet等で日本語対応。 28
Anthropic Claude Enterprise	Research、Cowork、Chat、Code、integrations、document citations。長めの調査・検証に強い。 30	先行技術調査メモ、権利化戦略、侵害リスク二次整理、契約論点整理、ナレッジ横断探索に向く。 31	高い。Researchはeasy-to-check citations、document citationsも提供可能。 32	商用プロダクトは既定で学習不使用。RBAC、audit logs、retention controls。 33	audit logs・OTEL monitoring・retention controlsあり。法務監査では強い部類。 34	Gmail/Drive/Slack等、さらにMCP/Integrationsで広い。Microsoft 365内利用も案内。 35	日本語公式サイトあり。出力品質は高いが、知財専用UIはない。 36

製品	主要な強み	対象範囲との適合	説明可能性	プライバシー・機密保持	証拠保全・監査	統合性	日本語対応
LegalOn	契約審査・ブレイブブック・修正文案・法務ナレッジの専門性。弁護士監修コンテンツが強い。 37	契約書レビュー、法的文書支援、社内ナレッジ管理で非常に適合。特許・侵害調査には限定的。 38	高い。リスク指摘・ブレイブブック・修正文案の説明性が高く、法務専用UI。 39	MFA、ISMS/ISMSクラウドセキュリティ、実務ナレッジ基盤。 40	契約レビュー証跡と審査基準の標準化に向く。 41	LegalOps領域では高いが、汎用app連携や特許DB横断ではOpenAI等に劣る。 42	日本市場最適化。日本語実務との相性は最良クラス。 43
AI Samurai	特許検索・評価・明細書作成支援・知財戦略マップ。特許専用性が明確。 45	先行技術調査、特許出願、権利化戦略、侵害調査の一次資料作成に適合。契約レビューは対象外。 46	中～高。A～D評価、クレームチャート出力、知財戦略マップは実務説明に使いやすい。 47	日本企業向け特許実務の前提に近いが、一般的なSaaS統制資料は大手外資ほど豊富ではない。 48	調査履歴・進捗管理はあるが、全社監査基盤としては別補完が必要。 49	特許ワークフロー内では高い。汎用社内ナレッジとの横断は限定的。 46	日本語ネイティブ前提。 50

比較を一言でまとめると、OpenAI Workは「広い」、Microsoft/Googleは「既存基盤に深い」、Anthropicは「調査と引用に強い」、LegalOn/AI Samuraiは「狭いが深い」です。日本の知財部が最も利益を出しやすいのは、OpenAI Workを横断レイヤーにし、契約・特許の専門工程だけ専門製品へ委譲するアーキテクチャです。
51

各工程別影響

以下の工数は、中堅～大企業の知財部・法務部が、社内文書接続済み・機密区分ルールあり・最終確認を人が行う前提での実務推定です。数値は、一般知識労働で報告されたAIの生産性改善幅と、LegalOnやAI Samuraiなど各ベンダーの公表機能、そして工程分解に基づく推定であり、必ずPoCで再計測すべきです。

工程	変わる作業	工数削減の現実的推定	OpenAI Workの向き不向き	競合優位
特許出願・審査対応	面談録・発明説明の整理、引用文献要約、拒絶理由通知ごとの論点表、意見書/補正書の叩き台	20～40%	叩き台生成と過去案件参照に強い。請求項設計の最終盤は人。	AI Samuraiが特許特化で優位。 53

工程	変わる作業	工数削減の現実的推定	OpenAI Workの向き不向き	競合優位
権利化戦略	発明群の整理、出願優先度評価、競合/市場/技術軸の比較表	25～50%	deep research・比較表・定期更新が強い。	Microsoft/Googleは既存社内データとの接続で強い。 54
先行技術調査	一次検索、類似文献スクリーニング、非特許文献の収集	25～45%	公開情報と社内知見の統合は強いが、特許DB精度は別途必要。	AI Samurai、既存特許DB。 55
契約書レビュー	条項要約、リスク抽出、翻訳、修正文案、社内基準照合	40～75%	汎用レビューは強い。プレイブック適用は設計次第。	LegalOnが最有力。ベンダー公表では最大85%短縮。 56
侵害調査・リスク評価	クレーム分解、製品仕様との対照表、FAQ型リスクメモ	20～40%	一次資料整理に有効。クレーム解釈・均等論は人。	AI Samuraiや外部弁理士/弁護士。 57
発明者支援	発明ノート、面談メモ、図面説明文、英訳/和訳	40～70%	Workの得意領域。会議録→ノート化→定期更新がしやすい。	Google Meet/DocsやMicrosoft Teams/Wordも強い。 58
社内ナレッジ管理	過去案件検索、FAQ、社内標準の再利用、週次更新	30～60%	company knowledge・deep research・Scheduled Tasksが非常に強い。	Microsoft/Googleも強い。 59

業務フローの変化

次のフローは、ChatGPT Workを知財業務の中心に置く場合の、**実務上もっとも安全な運用形**を表しています。ポイントは、**最初に機密区分を切り、Web検索の可否を分け、最後に専門家承認と証跡保存を必須化**することです。この設計は、OpenAIのsource selection・app read-only・activity history、各社の監査/アクセス制御機能、そして日本法上の守秘・非弁/非弁理士リスクを踏まえたものです。 60

6

公表しています。知財戦略の実務でも、競合出願、社内発明パイプライン、市場動向、共同研究契約、売上/利益への寄与可能性を一つの比較表にまとめる用途では、一般的なAI生産性研究が示す改善幅と整合的な効果が見込めます。 64

他社との比較では、Microsoftは **SharePoint/Teams/Outlookにある“経営会議前の情報”**を拾うのが強く、Googleは **Drive/Gmail/Docsに散った社内知見**の再結合が自然です。OpenAI Workはこの両者に比べ、**出力物の完成度と日程駆動の更新**、つまり「次回知財委員会向けのレポートを毎週更新する」といった運用に向きます。戦略工程でのベストプラクティスは、**評価基準を先に固定し、AIには収集と比較をさせ、人は優先度判断だけをする**ことです。 65

先行技術調査

先行技術調査では、Workは「**一次スクリーニングと非特許文献収集**」には強いが、「**特許性判断そのもの**」には強すぎないという理解が重要です。deep researchはWeb・アップロードファイル・接続アプリを横断して引用付きレポートを返し、OpenAIのcompany knowledgeは社内ソースへ引用付きで戻れるため、既存の研究報告、学会資料、技術メモ、特許公報の要約・比較には向きます。 9

一方で、日本の知財実務で重要な **FI/Fターム・IPC/CPC・審査官が見そうな引用群・日米中の公報差分**は、依然として専用DBや特許専門ツールのほうが強いです。AI Samuraiは類似文献評価、審査シミュレーション、知財戦略マップを前提にしており、この領域では專業らしい優位があります。したがって、Workの役割は **調査の起点と調査結果の読み下し**に限定し、検索母集団の確定と登録可能性判断は専用系へ渡すのが安全です。 46

誤情報・バイアスの想定ケースは、**日本語の発明説明を英訳→英語検索した結果、原語の技術ニュアンスが落ちて検索漏れが出る**ことです。対策としては、**原語検索と英訳検索を並行し、否定キーワードと同義語辞書を人が与える**こと、さらに「この検索式で落ちた可能性のある非特許文献の型は何か」をAI自身に逆質問させる設計が有効です。これは一般的なAI利用研究が示す“適合タスクでは速いが、境界領域では脆い”という含意とも合います。 66

契約書レビュー

契約書レビューは、ChatGPT Workが **最も短期で成果を出しやすい工程**です。契約書は文書中心で、要約・条項対比・修正文案・翻訳・過去版比較・社内FAQ参照という、AIが得意な作業が多いからです。OpenAI Workでも十分に一次レビューは可能ですが、**自社プレイブックの厳密運用・類型別リスク知見・ベストプラクティス修正文言**まで求めると、LegalOnのような專業が優位です。LegalOnは、弁護士監修のリスクチェック、プレイブック、AI Revise、LegalOnアシスタントを備え、公式には契約レビュー時間の **最大85%削減**を掲げています。もちろんこれはベンダー主張であり独立検証値ではありませんが、少なくとも **契約レビューが專業AIの主戦場**である点は明確です。 67

日本企業の知財部では、共同研究契約、NDA、ライセンス契約、共同出願契約、開発委託契約が頻出します。ここでの最適設計は、**Workで案件背景と交渉論点を整理し、LegalOnで契約条項レビューと修正文案を深掘る**構成です。これにより、知財部が苦手になりがちな「反社内説明」「技術側への論点翻訳」「英文契約の要点メモ」をWorkに寄せ、法務特化判断だけをLegalOnに集約できます。 68

法的リスクとしては、**相手方秘密情報を含む契約草案を不用意に公開Web検索や外部アプリ連携へ流すこと**が最大の事故シナリオです。OpenAIは外部ツールへ送ったデータが相手側条件で扱われ得ると明示し、MicrosoftはWeb groundingでBing側が別の取扱主体になると説明しています。したがって高機密契約では、**Web検索を無効化し、接続先アプリを限定し、証跡ログを残し、最終赤入れは専門ツール内で実施**する運用が必要です。 69

侵害調査・リスク評価

侵害調査でAIが大きく変えるのは、**資料対照表の準備**です。製品仕様書、営業資料、仕様変更履歴、相手特許の請求項、競合広告、FAQを読み込ませ、クレーム要件ごとの該当可能性を一覧化する作業は、Workが得意です。ここではOpenAI Work、Claude Research、Microsoft Copilotのいずれも有効ですが、**均等論、Prosecution history estoppel、クレーム解釈、間接侵害、輸出規制との交錯**のような高責任評価はAIに委ねるべきではありません。 70

実務では、AIの最適用途は「**論点を漏らさず表にする**」ことであって、「**結論を出す**」ことではありません。侵害調査は、誤判定したときの事故コストが高いため、期待値の置き方を誤ると逆効果です。PoCでは、正答率よりも「**重要論点の取りこぼし率**」をKPIにしたほうが安全です。Harakenzoのような特許実務側の記述でも、侵害性判断・鑑定は権利関係業務として明確に専門領域に位置づけられています。 71

発明者支援

発明者支援は、ChatGPT Workの“勝ち筋”が最も分かりやすい領域です。発明面談録、Slack/Teams議論、図面説明、テスト結果、過去出願をもとに、**発明ノート、代替実施形態、作用効果の言語化、社内説明用メモ、英日対訳**を作る作業は、汎用AIと非常に相性がよいです。Workは大きな成果物を返す前提で設計されており、地味だが頻度の高い発明ノート整理を、Scheduled Tasksと組み合わせて継続化できます。 72

競合では、GoogleがMeet/Docs/Gmail連携、MicrosoftがTeams/Outlook/Word連携で強く、発明会議の議事録からノート化する体験はむしろ彼らのほうが自然な場合もあります。ただしOpenAI Workは、そこからさらに**特許調査メモ・経営向け要約・次回面談の質問票**まで一つのタスクで仕上げやすい点が差です。知財部としては、発明者がAIに直接入力するのではなく、**発明窓口担当がテンプレート化したプロンプトを通す**ほうが、発明の質と秘密管理の両方に効きます。 73

典型的な事故は、**要約によって共同発明者の貢献が薄まり、発明者認定や社内報奨の根拠が曖昧になる**ケースです。対策は、発明ノートを「要約」ではなく「**発言者単位・根拠リンク付き記録**」として出力させ、面談直後に人が確認することです。証拠性の観点からも、誰がいつ何を説明したかを残すほうが後工程で有利です。 9

社内ナレッジ管理

知財部の生産性を最も安定的に押し上げるのは、実はこの工程です。company knowledge、deep research、Graph connectors、Workspace権限継承、Claude integrationsのような機能は、過去の審査対応、標準条項、FAQ、発明相談記録、他部署とのやり取りを再利用可能な形にするための基盤です。OpenAI company knowledgeは、ユーザー権限を尊重しつつ、**元資料への明確な引用**を付けて答えられるため、「この論点はどの過去案件でどう処理したか」を再発見する用途に向きます。 74

ここではOpenAI、Microsoft、Googleの差は、モデル性能より**既存リポジトリの所在**で決まります。社内情報が主にM365にあるならMicrosoft、Drive/DocsにあるならGoogle、複数基盤や外部SaaS横断が多いならOpenAI/Claudeが有利です。OpenAIは日本でsync connectorのデータレジデンシー対応を広げており、日本企業にとっては導入障壁が下がっています。 75

法務・倫理検討

最初に押さえるべきは、**ChatGPT Workは法的助言主体にも、代理人にもなれない**という点です。日本法では、弁護士法72条が報酬を得て法律事件に関する法律事務を取り扱う非弁行為を禁じ、法務省はAI等を用いた契約書等支援サービスについて、最終的判断は個別事実関係に基づくとしたうえで、一般論を整理しています。特許側でも、弁理士法4条・75条があり、日本弁理士会は、AIを用いたサービスであっても、実質的に

専権業務を行えば75条違反になり得ると整理しています。したがって、企業内で使うとしても、**外部ベンダーやBPOが“判断”と見えるところまで踏み込まない契約・運用設計**が必要です。 76

守秘義務と個人情報については、弁護士法23条が弁護士の秘密保持を定め、個人情報保護法は個人データの安全管理措置、従業者監督、委託先監督を求めています。また営業秘密は、不正競争防止法上、**秘密管理性・有用性・非公知性**を満たすことが保護の前提です。生成AI導入後に最も危ないのは、これらの保護を前提としたデータを、**権限分離やログなしに外部AIへ投入してしまうこと**です。社内運用では、営業秘密のラベル付け、入力可否ルール、委託先・再委託先の監督、越境移転の確認をセットで設計しなければなりません。 77

もう一つ重要なのは、**日本では米欧型の包括的 attorney-client privilege が一般的に民事訴訟全体へそのまま広がっているわけではない**ことです。日弁連と公取委の資料から分かるのは、独禁法調査に関して外部弁護士との一定通信を実質的に保護する制度が整備された一方、それは限定的制度であるということです。民事訴訟法には文書提出義務があり、実務上も、AI利用ログやドラフトが開示論点になり得ます。したがって、「AIに入れたから秘匿される」とは考えず、**何を残し、何を残さないか、どこでリーガルホールドへ移すか**を別建てで設計すべきです。 78

ベンダー別には、OpenAIはdeep researchのactivity history・source links・Compliance API、MicrosoftはExchangeへのログ保存とeDiscovery、Googleは組織内保存とDLP、AnthropicはEnterpriseのaudit logsとretention controlsがあり、“**証跡として残す**”機能は強いです。しかし、これらはあくまでSaaS監査性であって、**訴訟証拠としての改ざん防止、完全なチェーン・オブ・カストディ、リーガルホールド**を自動的に満たすとは公式には述べられていません。この差を埋めるには、DMS/監査基盤/電子署名/タイムスタンプ/保全手順が必要です。 79

倫理面では、**誤情報・偏り・過剰自信**が最大リスクです。日弁連も、生成AIが虚偽情報や偏向的・差別的情報を示すおそれ、情報セキュリティ上の課題を指摘しています。HBSの実験も、AIが得意領域ではパフォーマンスを上げる一方、境界領域で誤りを誘発し得ることを示しました。知財実務では、これが「**もっともらしいが危ない法的メモ**」を生みやすい。対策は、(a) source-boundモード、(b) 事実と意見の分離、(c) 根拠不十分箇所の明示、(d) 承認者の職責明確化、の4点です。 80

導入ガイド

PoC設計

PoCは、全工程を一気にやるより、**三本立て**が効果的です。第一に**契約レビュー**、第二に**先行技術調査の一次スクリーニング**、第三に**発明者支援＋ナレッジ検索**の三つです。これらは入力データの性質が違い、OpenAI Workの価値も見えやすいからです。PoCの期間は6～10週間程度、対象案件は実案件と過去案件を半々にし、最後に専門家が“**ブラインド比較**”する設計が望ましいです。OpenAI Workの承認付きタスク、deep researchのsource control、company knowledgeの権限継承は、この設計に相性が良いです。 81

PoCで見るべきKPIは、単なる処理時間だけでは不十分です。最低でも**処理時間、重要論点の取りこぼし率、引用根拠の追跡可能率、レビュー差戻し率、機密区分違反ゼロ、再利用率**を入れるべきです。契約レビューなら「重大条項の見逃し率」、先行技術調査なら「後から見つかった重要文献率」、発明者支援なら「追記・修正の発生率」が主要指標になります。AIの一般生産性研究でも、質と速度の両輪で評価しないと判断を誤ることが示唆されています。 82

運用ルール

運用ルールは、**アクセス管理、ログ、検証プロセス**の3本柱で定めるべきです。アクセス管理では、少なくとも「公開可」「社内限定」「営業秘密」「外部秘匿」「個人情報含有」の5区分を設け、**高機密データはWeb**

検索・外部アプリ・個人アカウント接続を禁止します。ログでは、プロンプト、参照ソース、生成物、承認者、外部送信先、モデル変更履歴を保存対象にします。検証プロセスでは、特許・契約・侵害のいずれも“AI一次案→担当レビュー→専門家承認→保存”を標準化します。ベンダー各社ともRBACや監査ログの仕組みは持ちますが、それを知財部向け手順に落とし込まない限り実効性は出ません。 83

教育・ガバナンス体制

教育は、プロンプト術より **禁則と責任分担** から入るべきです。第一層は全利用者向けに、入力禁止情報、引用確認、外部送信時の注意、機密区分、外国語契約・特許特有の落とし穴を教えます。第二層は知財責任者・法務責任者向けに、非弁/非弁理士、守秘義務、ログ保全、モデル更新管理を教えます。第三層は管理者向けに、RBAC、SSO/SCIM、コネクタ許可、監査ログの取り扱いを教える構成がよいです。OpenAI、Microsoft、Google、Anthropicのいずれも管理機能は強化されていますが、**教育なしで安全に使えるわけではない**という前提に立つ必要があります。 84

契約条項

契約では、最低でも次の論点を押さえるべきです。**データの学習不使用、保持期間、削除手順、データレジデンシー、外部ツール送信の可否、監査ログの取得、インシデント通知期限、再委託先、モデル変更通知、責任分配、出力の法的助言非該当明記、知財成果物の権利帰属**です。OpenAIはBusiness/Enterpriseデータを既定で学習に使わず、日本を含むデータレジデンシー対応を持ちます。MicrosoftはDPA/EDPと監査ログが強く、Googleは組織内保存とDLPが強く、Anthropicは商用データの学習不使用とEnterprise監査性が強い。つまり契約交渉では、**どのベンダーが優れているか**より、**自社の規律と照らして何が足りないか**を詰めるほうが重要です。 85

結論

日本企業の知財業務に対する **ChatGPT Work** の意味は、単なるAIチャットの延長ではありません。**発明・契約・審査・侵害・ナレッジをまたぐ“知財作業面”を一つにまとめる基盤**として登場した点が重要です。deep research、company knowledge、connected apps、Scheduled Tasks、完成物生成、RBAC、データレジデンシーを一体化したことで、知財部が抱える「情報が散っている」「毎回ゼロから調べる」「証拠が弱い」という構造問題に直接効くようになりました。 86

しかし、競合比較まで含めた実務結論は明快です。**OpenAI Workが最も強いのは“横断化”であり、“特化”ではない**。契約レビューではLegalOn、特許検索・評価・作成ではAI Samurai、M365基盤の監査・eDiscoveryではMicrosoft、Workspace権限継承とDLPではGoogle、長い調査と引用検証ではAnthropicが、それぞれより鋭い局面を持っています。したがって、ChatGPT Workが日本企業の知財業務を変えとしても、その変え方は**単独置換**ではなく、**ハブ化**です。 87

経営として採るべき方針は、ひとことで言えば「**Workを知財業務の司令塔にし、法的責任が重い最終盤は専門家と専門SaaSに残す**」です。これなら、工数削減を得ながら、非弁・非弁理士、守秘、証拠性、誤情報のリスクを実務的に抑えられます。2026年7月時点での最も現実的な提言は、**OpenAI Work中心のPoCを実施しつつ、既存のMicrosoft/Google基盤とLegalOn・AI Samuraiのような専門製品を併用前提で設計すること**です。それが、日本の知財部門にとって、最も効果が大きく、法的にも運用的にも無理のない導入戦略です。 88

- 2 AI等を用いた契約書等関連業務支援サービスの提供と弁護士 ...
https://www.moj.go.jp/content/001400675.pdf?utm_source=chatgpt.com
- 3 59 74 Company knowledge in ChatGPT (Business, Enterprise, and Edu) | OpenAI Help Center
<https://help.openai.com/en/articles/12628342-company-knowledge-in-chatgpt-business-enterprise-and-edu>
- 4 52 82 Generative AI at Work
https://www.nber.org/papers/w31161?utm_source=chatgpt.com
- 7 8 51 53 56 58 61 65 67 68 70 72 81 88 Get started with Work | ChatGPT Learn
<https://developers.openai.com/codex/get-started-with-work>
- 9 11 54 55 60 79 Deep research in ChatGPT | OpenAI Help Center
<https://help.openai.com/en/articles/10500283-deep-research-in-chatgpt>
- 10 83 84 85 Business data privacy, security, and compliance | OpenAI
<https://openai.com/business-data/>
- 12 Apps in ChatGPT | OpenAI Help Center
<https://help.openai.com/en/articles/11487775-connectors-in-chatgpt>
- 13 How to change your language setting in ChatGPT
https://help.openai.com/en/articles/8357869-how-to-change-your-language-setting-in-chatgpt?utm_source=chatgpt.com
- 14 Pricing | ChatGPT Learn
<https://developers.openai.com/codex/pricing>
- 15 16 73 Microsoft 365 Copilot | 職場向けの AI 仕事効率化ツール
<https://www.microsoft.com/ja-jp/microsoft-365-copilot>
- 17 Show citations with response semantics in declarative agents | Microsoft Learn
<https://learn.microsoft.com/en-us/microsoft-365/copilot/extensibility/plugin-citations>
- 18 19 Microsoft 365 Copilot Chat Privacy and Protections | Microsoft Learn
<https://learn.microsoft.com/en-us/copilot/privacy-and-protections>
- 20 Microsoft 365 Copilot connectors overview | Microsoft Learn
<https://learn.microsoft.com/en-us/microsoft-365/copilot/extensibility/overview-copilot-connector>
- 21 Microsoft 365 Copilot | 職場向けの AI 仕事効率化ツール
https://www.microsoft.com/ja-jp/microsoft-365-copilot?utm_source=chatgpt.com
- 22 Microsoft 365 Copilot プランと価格 - ビジネス向けの AI | Microsoft 365
<https://www.microsoft.com/ja-jp/microsoft-365-copilot/pricing>
- 23 27 ビジネス向け AI ツール | Google Workspace
<https://workspace.google.com/solutions/ai/>
- 24 Create detailed reports with Deep Research | Google Workspace Blog
<https://workspace.google.com/blog/ai-and-machine-learning/meet-deep-research-your-new-ai-research-assistant>
- 25 What controls Gemini's access to Workspace data - Google Workspace Learning Center
<https://support.google.com/a/users/answer/17010577?hl=en>
- 26 Get started with Google Workspace with Gemini - Business / Enterprise - Gmail Help
https://support.google.com/mail/answer/13952129?co=DASHER._Family%3DBusiness-Enterprise&hl=en
- 28 Supported languages for Google Workspace with Gemini
https://support.google.com/docs/answer/14925782?hl=en&utm_source=chatgpt.com

- 29 Gemini AI features now included in Google Workspace ...
https://knowledge.workspace.google.com/admin/generative-ai/workspace-with-gemini/gemini-ai-features-now-included-in-google-workspace-subscriptions?utm_source=chatgpt.com
- 30 34 35 Claude Enterprise Plan | Claude by Anthropic
<https://www.anthropic.com/product/enterprise>
- 31 32 Use research on Claude | Claude Help Center
<https://support.anthropic.com/en/articles/11088861-using-research-on-claude-ai>
- 33 Is my data used for model training? | Anthropic Privacy Center
<https://privacy.anthropic.com/en/articles/7996868-is-my-data-used-for-model-training>
- 36 速く考え、さらに速く構築する - Claude
https://claude.com/ja?utm_source=chatgpt.com
- 37 38 39 43 87 【公式】LegalOn（リーガルオン） | Professional AI for LEGAL ...
https://www.legalon-cloud.com/?utm_source=chatgpt.com
- 40 多要素認証を標準搭載～不正アクセス・情報漏洩リスクの低減 ...
https://legalontech.jp/9440/?utm_source=chatgpt.com
- 41 生成AIを活用し、各企業に最適化した契約レビューを実現する ...
https://legalontech.jp/8511/?utm_source=chatgpt.com
- 42 基本構造 — Professional AI for LEGAL | LegalOn
https://www.legalon-cloud.com/products?utm_source=chatgpt.com
- 44 AI法務プラットフォーム「LegalOn Cloud」製品サイト ...
https://legalontech.jp/8247/?utm_source=chatgpt.com
- 45 46 49 AI Samurai 類似文献評価システム | 特許調査支援システムの「株式会社AI Samurai」
<https://aisamurai.co.jp/landingpage/>
- 47 48 57 62 株式会社AI Samuraiは、ChatGPT搭載の新製品『AI Samurai ONE』の先行予約を開始いたします！ | 特許申請支援システムの「株式会社AI Samurai」
<https://aisamurai.co.jp/2023/08/23/aisamuraione-info/>
- 50 みんなの特許 | 特許調査支援システムの「株式会社AI Samurai」
<https://aisamurai.co.jp/minnano-tokkyo/>
- 63 GPT-5.6 System Card - OpenAI Deployment Safety Hub
<https://deploymentsafety.openai.com/gpt-5-6>
- 64 GPT-5.6: Frontier intelligence that scales with your ambition | OpenAI
<https://openai.com/index/gpt-5-6/>
- 66 Navigating the Jagged Technological Frontier: Field ...
https://www.hbs.edu/faculty/Pages/item.aspx?num=64700&utm_source=chatgpt.com
- 69 Data residency and inference residency for ChatGPT | OpenAI Help Center
<https://help.openai.com/en/articles/9903489-data-residency-and-inference-residency-for-chatgpt>
- 71 組織概要
https://www.harakenzo.com/company/organization/?utm_source=chatgpt.com
- 75 ChatGPT Enterprise & Edu - Release Notes | OpenAI Help Center
<https://help.openai.com/en/articles/10128477-chatgpt-enterprise-edu-release-notes>

76 弁護士法

https://laws.e-gov.go.jp/law/324AC1000000205?occasion_date=20250401&utm_source=chatgpt.com

77 弁護士法

https://laws.e-gov.go.jp/law/324AC1000000205?occasion_date=20190914&utm_source=chatgpt.com

78 (令和元年6月19日)「私的独占の禁止及び ...

https://www.jftc.go.jp/houdou/pressrelease/2019/jun/190619_1.html?utm_source=chatgpt.com

80 日弁連新聞 第591号

https://www.nichibenren.or.jp/document/newspaper/year/2023/591.html?utm_source=chatgpt.com